

安全データシート

整理番号 D-62780
作成日 2025年04月03日

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称商品名 キュットス
 会社情報
 会社名 有限会社 プロケミ
 住 所 岐阜県美濃加茂市御門町 1-2-28
 電 話 TEL:0574-23-2077 FAX:0574-23-2078
 担当部門 技術部
 推奨用途及び使用上の制限 屋内スポーツ用シューズグリップ剤

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分 2
 上記に記載がない危険有害性は、分類対象外もしくは分類できない。

【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H319 : 強い眼刺激

注意書き

【安全対策】

【応急措置】

【保管】

【廃棄】

3. 組成、成分情報

単一物質・混合物の区別 混合物
 化学名又は一般名 屋内スポーツ用シューズグリップ剤
 成分名、含有量、CAS No.、化審法番号及び PRTR 管理番号

成分名	含有量 [%]	CAS No.	化審法	PRTR 法
グリセリン	非公開	56-81-5	(2)-242	—
尿素	非公開	57-13-6	(2)-1732	—
ポリヘキサメチレンビグアナイド	非公開	27083-27-8 (32289-58-0)	(7)-1729 (1)-215	
その他、水	残り			

4. 応急処置

吸入した場合

- 直ちにうがいをする。
- 空気の新鮮な場所に移すこと。
- 症状が続く場合は医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合
 - 直ちに石鹼と多量の水で洗い流すこと。
 - 汚染された衣服、靴等を速やかに脱がせる。
 - 症状が続く場合は医師に連絡すること。
- 眼に入った場合
 - 数分間目を閉じて洗浄する。
 - コンタクトレンズを容易に外せる場合は外して洗浄すること。
 - 直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合
 - 水で口の中をよく洗浄する。
 - 無理に吐かせてはならない。
 - 症状が続く場合は医師に連絡すること。
- 応急処置をする者の保護
 - 個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

- 消火剤
 - 粉末消火剤、泡消火剤、水噴霧、二酸化炭素、乾燥砂
- 使ってはならない消火剤
 - 棒状注水（本品があふれ出し、環境汚染を引き起こすおそれ）。
- 特有の危険有害性
 - 火災によって有害なガスやヒュームを発生する恐れがある。
- 特有の消火方法
 - 消火作業は風上から行い、消火する人は場合によっては呼吸保護具を着用する。
 - 火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。
 - 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- 消火を行う者の保護
 - 適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
 - 屋内で作業する場合は十分な換気をする。
 - 作業時は保護具を着用する。
 - 漏出した場所の周辺にはロープを張るなどして人の出入りを禁止する。
 - 風下の人を避難させる。
- 環境に対する注意事項
 - 環境中に放出してはならない。
- 回収、中和
 - 少量の場合：漏洩物を乾燥砂、吸収剤などで吸収し、密閉できる空容器に回収する。
 - 多量の場合：漏洩物を土嚢などでせき止め、ポンプ等を使い密閉できる空容器に回収する。
 - 後処理として、漏洩区域は大量の水で洗い流す。
- 封じ込め及び浄化方法と機材
 - ウエス、ちりとり、スコップ等で回収する。
- 二次災害の防止策
 - 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- 作業時は保護具を着用する。
- 粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
- 使用後は容器を密閉する。

局所排気・全体換気

- 必要に応じて局所排気、全体換気を行う。

安全取扱注意事項

- すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
- 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
- 人体への接触、吸入又は飲み込まない。
- この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
- 取扱い後は手をよく洗うこと。
- 汚染された衣服は、多量の水ですすぎ洗いする。

接触回避

- 直射日光、高温体、凍結

保管

技術的対策

- 保管場所は製品が汚染されないように清潔にする。
- 保管場所は採光と換気装置を設置する。

混触危険物質

- 強アルカリ、強酸、強酸化剤、アルカリ金属水酸化物類、硝酸塩

保管条件

- 容器は直射日光や湿気、強熱を避けて常温で保管する。
- 容器を密閉して冷暗所に保管する。
- 一定の場所を定めて、施錠して保管する。
- 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。

容器包装材料

- ポリエチレン、ポリプロピレン等

8. 暴露防止及び保管措置

名称	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会	ACGIH
グリセリン	未設定	未設定	TWA 10mg/m3 (vapor)
尿素	未設定	未設定	未設定
ポリヘキサメチレン ビグアナイド	未設定	未設定	未設定

設備対策

- 屋内作業場で使用する場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。
- 取扱場所の近くに安全シャワーや洗顔設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

- 呼吸器用保護具 保護マスク
- 手の保護具 保護手袋
- 眼の保護具 側板付き保護眼鏡、化学用安全眼鏡
- 皮膚及び身体の保護具 長袖作業着、保護長靴

衛生対策

- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 保護具は定期的に点検すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態	透明液体
色	無色
臭い	無臭
融点／凝固点	データなし
沸点／初留点及び沸騰範囲	約100℃（水の沸点）
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界	データなし
引火点	なし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
pH	約7.5
動粘性率	データなし
溶解度	水：容易に分散
オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	約1.1
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

長期間静置すると分離する。

危険有害反応可能性

加熱すると分解して有害なガスやヒュームを発生する恐れがある。

強アルカリ、強酸、強酸化剤と反応する恐れがある。

避けるべき条件

直射日光、高温体、凍結

混触危険物質

強アルカリ、強酸、強酸化剤、アルカリ金属水酸化物類、硝酸塩

危険有害な分解生成物

データなし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）

急性毒性推定値が5000mg/Kg以上のため、区分に該当しない。

急性毒性（経皮）

データ不足のため、分類できない。

急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）

データ不足のため、分類できない。

皮膚腐食性／刺激性

データ不足のため、分類できない。

眼に対する重篤な損傷／刺激性

10×（眼区分1+皮膚区分1）+眼区分2A+眼区分2B+眼区分2の成分合計が20.1%であり、濃度限界（10%）以上のため、区分2とした。

呼吸器感作性

データ不足のため、分類できない。

皮膚感作性

データ不足のため、分類できない。

生殖細胞変異原性

データ不足のため、分類できない。

発がん性

データ不足のため、分類できない。

生殖毒性・授乳影響

データ不足のため、分類できない。

特定標的臓器／全身毒性（単回ばく露）

データ不足のため、分類できない。

特定標的臓器／全身毒性（反復ばく露）

データ不足のため、分類できない。

誤えん有害性

データ不足のため、分類できない。

1 2. 環境影響情報

水生環境急性有害性

データ不足のため、分類できない。

水生環境慢性有害性

データ不足のため、分類できない。

残留性・分解性

データ不足のため、分類できない。

生態蓄積性

データ不足のため、分類できない。

土壌中の移動性

データ不足のため、分類できない。

オゾン層への有害性

本製品はモントリオール議定書の付属書に列記された物質を含んでいない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

汚染容器及び包装

使用済みの容器は、他の物質を混入させたり、他の用途に使用しない。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 非該当

国内規制

陸上規制 非該当

海上規制 非該当

航空規制 非該当

特別の安全対策

各種法令に従い輸送すること。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。

重いものを積み重ねないこと。

15. 適用法令

労働安全衛生法	該当しない
労働基準法	該当しない
消防法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない
P R T R法	該当しない

16. その他の情報

本製品は工業用の特定の用途向けに開発された商品です。

弊社が紹介した目的は、用途及び用法以外では使用しないで下さい。

この情報は新しい知見により改訂されることがありますのでご了解下さい。

ここに記載された情報は製品の規格ではありません。

また、当社で調査できる範囲内の情報であり、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。

すべての化学品には未知の有害性がありうるため、取扱いには十分注意して下さい。

本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行って下さい。

参考文献

- 「中央労働災害防止協会」発行
[GHS対応による混合物（化学物資）のMSDS作成手法の研修テキスト（改訂版）]
- GHS分類結果（NITE）
- GHS分類結果（安全情報センター）

※注意

全ての資料や文献を調査したわけではなく、危険物及び有害性の評価は、必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により、内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等を検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。

また、含有量の物理／化学的性質などの数値は、保証値ではありません。注意事項等は、通常的な取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には、その点ご配慮をお願いします。

尚、今回のGHS対応MSDSの作成に当っては、「中央労働災害防止協会」発行の「GHS対応による混合物（化学物質）のMSDS作成手法」の研修テキスト（改訂版）を基に作成しました。データ不明の項目も多く、推定により区分分けをした場合も多いので、必ずしも絶対的なものではない事を明記しておきます。
